

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 復興支援－03

学校名・団体名	八戸市立種差小学校
HPアドレス	http://www.hachinohe.ed.jp/taness_e/index.html
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	三陸復興国立公園種差海岸の復興を 開発したお菓子でPRしよう
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>種差海岸は、東日本大震災の津波の被害を受けた。ようやくもとの自然の美しさを取り戻してきた。平成25年には三陸復興国立公園に指定され、復興をアピールする環境省の種差海岸インフォメーションセンターも開所された。それに伴い、訪れる観光客も増加傾向にある。</p> <p>今、地域住民のおもてなしの取組が課題となってきた。地域住民から「種差のお土産がない」という声も聞こえてきていた。そこで、本校の総合的な学習の一環として、もっと種差地域を盛り立てるために全校児童で「種差らしいお菓子づくりプロジェクト」を進めることにした。</p>	

種差らしいお菓子づくりプロジェクトの2年間の取組について、市の中心部にある八戸市民が集う場「ポータルミュージアム：はっち」という場において、その成果を発表した。さらに、開発した種差らしいお菓子3種類を販売し、種差海岸の復興と種差のよさ、海の幸をアピールした。

- 1 日時 平成27年11月28日(土) 場所：八戸市ポータルミュージアム：はっち
- 2 内容 「八戸いちごマルシェ」(青森県菓子組合のイベント)というお菓子づくりのプロが集うイベント会場において、種差小学校児童のアイデアを生かした2年間のお菓子づくりの取組の様子をプレゼンテーションし、開発したお菓子の販売も実施した。



発表会場の「はっち」



お菓子の祭典看板



スライドを発表する6年児童4名



全校児童26名で、種差らしいお菓子とは、どういうものなのかを話し合ってきた。そして、皆で絵にアイデアを表した。ようやく、「ふのりクッキー」「海藻マドレーヌ」「ザボンの月」の3種類が完成した。



積極的に販売している6年生



他の菓子店の横を借りての販売も実施

12:30~13:30という短い時間でしたが、準備していた100セットは、すぐ完売した。『ちゅうでん教育振興財団』の支援で製作したオリジナルパッケージは、取っ手付きであり、本校児童

3名の絵が印刷されている。会場にお越しのお客様も感心しながらパッケージを見ていた。



左『ウニとったど!』中『ウミネコの親子』右『あしげ崎』の絵



参加した6年児童4名は、最初こそ緊張していたが、後半は笑顔で販売してくれた。

3 成果や子どもたちへの効果

平成26年度から、自分たちの住んでいる種差海岸の海の幸を取り入れたお菓子づくりプロジェクトを進めてきた。このプロジェクトのきっかけは、地域住民の「種差にはお土産のお菓子がない。」という言葉からだった。お菓子のアイデアを絵に描いてみた。その絵を見たお菓子屋さんが、1種類作ってくれた。それが面白くて、子どもたちにもやる気が出てきた。もう2種類完成した。売れるかどうか、インフォメーションセンター(環境省が開所)のプログラムとして、お菓子開発の様子を紹介し、試食販売も行った。お菓子は大好評だった。子どもたちには、「お菓子をパッケージに入れて販売したい」という願いがあった。しかし、市内の印刷業者に問い合わせたところ、オリジナルの場合、かなりの費用がかかることが分かり、断念していた。

平成27年度、『ちゅうでん教育振興財団』からの支援が決まり、本格的にオリジナルパッケージづくりに着手することができた。全校児童で、パッケージの3面に入れる絵(種差の自然、海などで誇れるものを)を考えた。プロのデザイナーからもアドバイスを受け、11月上旬にパッケージ案ができた。(平成28年1月中旬に完成したパッケージが学校に届いた。)

11月28日当日は、2年間の取組状況を36枚のスライドにして発表した。子どもたちは緊張していたが、種差の自然、花や岩、天然芝生地、海の幸の素晴らしさについて堂々と発表してくれた。さらに、自分たちの住んでいる種差地域を守って行こう、環境保全活動、環境美化活動を継続して行こうとする意欲が高まってきている。「種差らしいお菓子づくりプロジェクト」を通して、本校児童・保護者・地域住民が、自分たちの地域に誇りと愛着を持つことができるようになってきた。『ちゅうでん教育振興財団』の支援を受けたこの活動は、種差海岸の復興を力強くアピールすることにつながった。この活動を通して、復興を十分PRできたものとする。